

家畜衛生だより

牛ウイルス性下痢(BVD)の

バルク乳検査を実施します！

今年度も

牛ウイルス性下痢の持続感染牛(PI牛)を早期に発見するため、県内の酪農家を対象にBVDのバルク乳スクリーニング検査を実施します(無料)。

1. 検査日程: 8月、2月
2. 検査材料: バルク乳
(原則、クーラーステーションで採材)
3. 検査方法: 遺伝子検査



© 2020 Japan Dairy Council

今年度は検査日程が8月、2月に変わっていますので御注意ください。

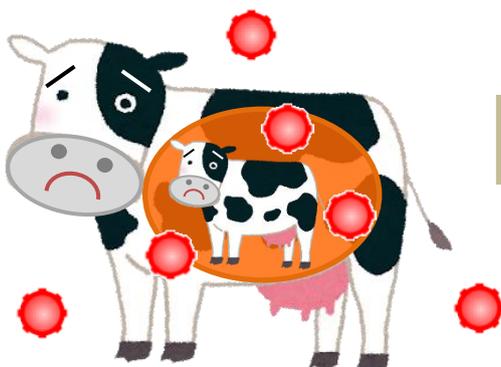
➤ BVD とは？

- ・ BVDウイルスの感染による牛の病気。
- ・ 感染すると下痢や発熱、呼吸器症状などを起こすが、通常一週間程度で回復。
- ・ 妊娠牛が感染すると、流産や先天異常が起こる。

➤ PI牛とは？

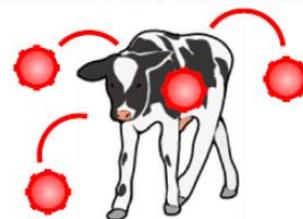
- ・ 妊娠牛が胎齢約 18～125 日で感染したとき、子牛がウイルスと共存したままPI牛(一生涯大量のウイルスを排出する持続感染牛)として生まれる場合があります。

胎齢約 18～125 日で感染



分娩後

気づかないうちに
農場や取引先にまん延



PI牛の摘発・淘汰
母牛は、回復し健康

➤ 問題点は？

- ・PI牛は、生涯にわたって糞尿や鼻汁から大量のウイルスを排出し続け、他の牛に感染させます。
- ・新たにPI牛が生まれてくる可能性があるため、農場は汚染され続けます。
- ・PI牛の子は必ずPI牛になり、治療方法はありません。

★県内のPI牛摘発事例★

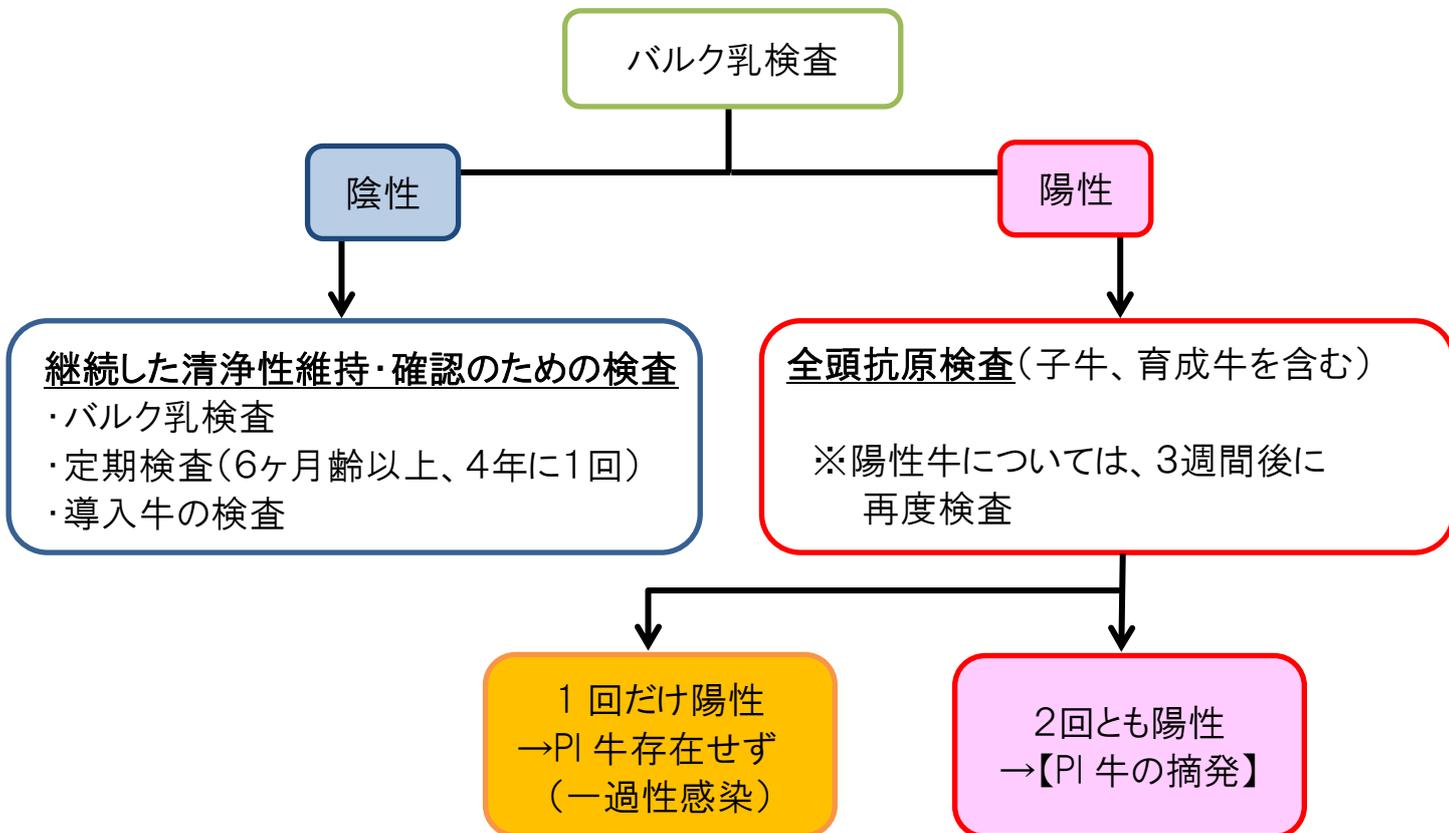
- ・平成 29 年度：酪農家1戸2頭、肉牛農家1戸1頭摘発
- ・平成 30 年度：酪農家1戸2頭摘発
- ・令和 2年度：酪農家3戸3頭摘発

➤ どうしたらいいの？

- ・農場内にPI牛がいないか検査をしましょう。
⇒年2回のバルク乳検査と4年に一度の定期検査で確認！
- ・ワクチンを接種して感染を予防しましょう。
⇒妊娠牛には不活化ワクチンを使用しましょう。

➤ バルク乳検査の流れ

バルク乳検査で陽性となったら、以下の流れでPI牛を摘発する必要があります。



- * 摘発したPI牛は、自主的とう汰を実施する。
- * PI牛の自主的とう汰以降、10か月間に生まれた新生子牛は抗原検査を実施する。
- * 御不明な点については、川越家畜保健衛生所まで御連絡ください。